

2021 年度演劇映像コース新 2 年生のみなさんへ

演劇映像コース運営主任
藤井仁子

1. 進級おめでとうございます。科目登録ガイダンスを文書を通じて実施するという例外的な対応となりましたが、何よりもまずテキストの読解に基礎を置く文学部に所属する者にとって、これはさほど異常な事態とはいえないのかもしれませんが、いずれにせよ、みなさんを歓迎するわれわれの気持ちには変わりがないということをお伝えしておきます。
2. 科目履修方法等については、「科目登録の手引き」をよく読み、不明な点は事務所に訊ねるなどしてください。本資料とあわせて配布している「科目履修要領」と「2021 年度学部 & 文研時間割」（各時限の上部、[文]とあるのが学部科目です）が参考になるでしょう。演劇映像コースは内部で演劇系と映像系に分かれています。特に必修演習科目はそれぞれで異なりますので、「科目履修要領」で確認しながら履修計画を立ててください。また、選択必修演習は一度に多く履修しすぎないことを薦めます。目安としては学期に1コマずつ、3年次の一方の学期でのみ2コマ履修すると無理なく卒業単位を揃えられます。ブリッジ科目のうち「演劇研究入門」と「映画研究入門」は進級前、1年次での履修を想定した科目ですが、未履修の方には2年次での履修を強く薦めます。このほか、他学部・他コースでも本コースと関わりの深い授業科目が開講されていますから（特に文化構想学部表象・メディア論系など）、シラバス検索等を活用し、意欲的に履修してほしいところです。
3. 演劇映像コース室は33号館605号室（内線72-3785、直通03-5286-3631）で、授業期間中、月～金の原則として12時～17時には、講師（木原圭翔先生）またはTAが在室しています（詳しい開室時間はコース室前掲示で確認してください）。わからないことがあれば、まずはコース室で訊ねるとよいでしょう。コース室ではみなさんの学習に役立つ映像資料（DVD）を豊富に所蔵しており、コース所属のみなさんに限り、貸出を行なっています。また、これは早稲田大学の全学生が対象ですが、国立映画アーカイブでの通常の上映と展示は無料、特別上映時も割引料金で見ることができます（<https://www.nfaj.go.jp/aboutnfaj/campusmembers/>）。もちろん大学図書館にも多くの映像資料が所蔵されていますから、これらを十二分に活用することで、本コースでの学習に必要な映像資料はほぼすべて利用できるはずです。
4. 本コースでは新2年生全員を対象に合宿を実施しています。**必修に準ずる**という扱いで、例年9割以上が参加しています。今年度はひとまず秋学期に延期とし、状況を見て実施の可否を判断します。なお、合宿は和田修先生が取りまとめと引率をします。
5. 本コースの学生は早稲田大学演劇映像学会に入会できます。資格は学部学生会員、会費は無料です。年1回開催される大会では大学院生の研究発表に加え、ゲストによる講演・シンポジウム等が行なわれ、学会誌『演劇映像』が年1回発行されます。みなさんにとっては演劇学と映画学の最新成果に生で触れられる貴重な機会です。学部学生会員には特段の義務もなく、メリットしかありません。ぜひとも全員に入会していただきたいと強く願っています。添付の「早稲田大学演劇映像学会会則」を参照のうえ、「早稲田大学演劇映像学会入会申込書」に必要事項を記入し、授業開始後に演劇映像コース室まで提出してください。授業時に専任教員（「専任教員一覧」参照）に直接提出してもかまいません。
6. 在学中に海外留学を検討している方への注意です。本コースでは、「卒論演習」の単位と留学先で取得した単位との振替を認めていません。したがって、たとえば3年次の秋学期から4年次の春学期にかけて留学する場合、帰国後の4年次秋学期から次年度春学期にかけて「卒論演習」を履修せねばならず、4年間での卒業は不可能となります（5年目の9月卒業が最短）。留学計画を立てる際には注意してください。2年次の秋学期から3年次の春学期にかけて留学する場合は問題ありません。
7. 本コースのウェブサイトと問い合わせ先です。<http://www.engkieizo.com> engkieizo@gmail.com

以上